



1950/10 参 第 No. 13

主婦の地位をたかめる啓蒙活動の手引き

I 主婦の役目

II 主婦の労働

III 主婦の生活をたかめる

主婦の家庭内における働きは、夫の外での働きとともに、家庭内の生活を維持してゆくことに欠くことの出来ないものです。しかし一般には、夫の経済力だけが大きく評価されて、主婦の働きは正当に認められない傾向があります。

古い家族制度からまた家を中心とする考え方はまだのこつていて、やがてすると主婦の立場を、家に附属する嫁、または単に家事労働とするものであるとして、その本当の役目が見落されがちです。

そこでこの家の啓蒙活動においては、第一に主婦の働きを物心両面からどのように重要なものであるかを検討して正しく評価するように奨励すること、第二に主婦の仕事のしめたと分析してみよう、その不合理性を指摘すること、第三に主婦の生活を合理的に計画しなおして、主婦が教養をたかめ生活をたかめしむことによつて、自

身が幸福になるように心がけるだけでなく、社会的関心をもつ社会人になれるようにすること、などを強調するものであります。

この運動には、根本的に古い家族制度から、新しい民主的な家庭関係の建設への努力、すなわち、家庭の民主化という観念が基礎となるべきことばかりでありません。家庭の民主化とは、夫と妻とが完全に対等の人格として尊敬しあい、愛情をもつてむすびれた家庭であり、家族員の間に決して差別観念や、支配従属のほうい関係を意味します。この関係を確立することは、従来重視されがちであった家庭婦人の「人権」を確立することにもなるのです。

【主婦の役目】

家庭生活は、非常に多くの面をこめており、その中心を占めるのが主婦の任務とまた多方面にわたりますが、その中でとくに主婦の大切な役目としてつぎのことが考えられます。

✓1. 夫の伴侶として

妻として第一にあげられるのは、夫のベター・ハーフということでしょう。

妻の役目は、夫の愛人であり、兄弟でありまた頼りになる相談相手としてよりき要命です。しかし一般にみられるように、夫は、妻が夫の身のまわりの世話をするというだけで、愛情は二のつ

ぎだし、お互の精神生活には無関心です。これでは、真に民主的な新しい夫婦関係となりたてることができません。家庭は=人が力をあわせて築きあげてゆくものであり、深い愛情と理解がその生活の支えとなるべきでしょう。

✓2. 子供の教育者

子供を立派に育ててゆくのは、勿論夫婦=人の責任ですが、普段外に出がぬ夫よりも、主婦のうけもつ面が大きいのが、普通でしょう。

母親の役目はただ子供の日常生活の世話をするというだけでなく、子供たちの教師となり、時には一しよに学ぶ者、また、楽しい遊びの仲間、そして、何でも打ちけることが出来るほほし相手とならなければならぬでしょう。したがって、母親は、夫や子供たちとともに、教養を身に付け知的な教育者とならねばなりません。

✓3. だんらんを中心

家庭のだんらんとは、家族の人たちのいこいの場所であり、明日への力の源です。みながたのしむときに、立つたり座ったりいそがしそうにして主婦だけがのけものになるというのではなく、聡明な主婦は家事の工夫によつて、その中心となり、みなの心を楽しくあたためます。

✓4. 家政の責任者

主婦は、家族の人たちの毎日の生活がとどこおりなくはこばれるように、家計のやりくり、衣食住の管理、家族の保健衛生など家庭内の一切のことに気をくばります。

同じ費用で、より快よい生活をするためには、聡明な主婦は、家計に計画性をしなせす。また一月の家計費、年間を通じた費用の配分をどの様にするかなどは、主婦の腕にかかっています。

よい主婦は、家計の豫算をたてること、家計簿に記入すること、一日の家事の順序をきめておくこと、主要な物価をしること、上手に買物をすること、さしぐと計量器をつかって調理し、燃料の上手な使い方、便利な家具のつかい方などを研究すること、家族の健康状態に注意し病気を未然にふせぐこと、などによって、上手に家政をやりくりするのです。

✓以上主婦の役目をいろいろあげましたが、こうした役目を並べにはたすのではなくて、食事や掃除、洗濯、子供と、ただつぎつぎと 電計画にし、その日その日をおくっているのでは、よい主婦とはいえません。もしそれだけなら、やとわれた家政婦でも代ることが出来てでしょう。

しかしこれは主婦の自責のたぐひといふばかりでなく、家庭が 主婦を単位として独立せずに、親子の夫婦が同居していつまでも姑 が手に家庭の管理権があつたり、夫が、主婦に家政の全部をまかせ

さればかりすること、家困となることが多々でしょう。新しい 家庭生活 — つまり、夫と妻との相互に尊敬しあつた結合を中心と した生活 — をきづき、主婦が、その役目を充分はたすためには、家族員みなの努力と協力が必要です。

Ⅱ 主婦の努力

私業につれて働く人々の労働に対しては、賃金が支払われますか り、その代金は誰の目にも収入としてはつきりみえます。しかし家 庭で働く主婦の場合、大抵それが現金収入の形でありわれず、また家計支どの程度助けたかを計算されません。現在の世の中では、すべての労働が、賃金として計算されていますので、男子は勿論、婦人自身、お金にならばい主婦の労働をかるく考える傾向があります。勿論、主婦の家庭内における労働は、工場や会社などに働く人 人のそれにくらべて、内容も形式もちがひ、そのまゝ比較するのは 危険なことではありますが、しかし、家事労働を経済的にはか り、みることも一考案となりましよう。

主婦の数を、昭和15年の国勢調査の女子有配偶者数で見ますと、総人口(内地) 7,787万のうち、1,350万となつています。この女子有配 偶者が必ずしも全部家事労働にのみ従事してゐるとはかぎりませ んが、家事労働に専任する人数は産業別にみた人口のどのグループ

り大きいグループであることが予想されます。したがってこの主婦のおくつてける毎日の生活時間は、国民生活の重要な部分とされることとなります。

(1) 主婦の生活時間より

✓イ、家事労働時間

家事労働の時間を職業別生活時間によってみますと、次の様な数字が報告されています。(比較として右に男子の労働時間をのせました)

ア、専業主婦の 女子家族の家事労働時間

21~30才	10時間20分
31~45才	10時間30分
46~60才	9時間39分

男子勤務時間 (通勤を含む)

8時間30分
8時間39分
8時間21分

イ、工場勤務者の 女子家族の家事労働時間

21~30才	11時間01分
31~45才	11時間03分
46~60才	10時間42分

男子勤務時間 (通勤を含む)

10時間39分
10時間41分
10時間45分

ウ、小売業を営む(営業使用人五人程度) 女子の

家事労働時間 従業時間

21~30才	7時間06分	4時間24分
31~45才	6時間45分	5時間08分
46~60才	6時間18分	4時間40分

男子従業時間

10時間03分
9時間39分
8時間48分

エ、農業を営む女子 家事労働時間 農事労働時間 男子農事労働時間

21~30才	4時間30分	8時間12分	9時間58分
31~45才	4時間11分	8時間07分	10時間03分
46~60才	4時間26分	6時間58分	9時間25分

以上、日本放送協会昭和16年の調査、婦人少年局発行「婦人の家庭に関する資料」より轉載

数字で見られるとおり、家事労働の時間は同じを営む男子の労働時間を上廻っております。

小売業を営む、農業を営むにおいては、家事労働の時間は

ですが、男子と共に営業や、農事に従事する時間をあわせれば、主婦の働く時間は同様に男子より長くなります。単に働く時間の面だけで比較したのでは、その労働の質がちがいますので男女どちらが働くかという点の比較にはなりません。家庭の主婦の労働が、長時間拘束された労働であるために肉体的、精神的圧迫感があり、さらに労働の場所が、工場などとはちがって上下、左右、あちこちかわるので疲労度は大へん大きいのです。

ロ、主婦には休日がない

(婦人少年局発行「婦人労働者並に労働者家庭婦人の工場外生活時間調査報告」参照)

主婦の生活時間の特色は、平日休日の別がなく、一週間の平均とされていることです。先にあげた婦人の家事労働時間は、休日と殆ど

変りなく続けられ、一週間の70時間となりますが、職場の人たちは、休日があるので週間の労働時間の差は大きくなります。

この平日休日の差が大きいということが、主婦の生活にリズムをなくし、教養、娯楽、睡眠時間を圧縮させ、圧迫感と疲労感をあたえます。

例えば、今年三月婦人少年局で実施した京浜地帯工場の調査において、主婦の教養、娯楽の時間は、平日では夫よりやや少い程度ですが、休日になると男子は約四倍の時間近くになるのに対し、主婦はほとんど時間30分にしかありません。

✓主婦は何人分も働いている

主婦の家事仕事の内容は、炊事、育児、洗濯、裁縫、その他多種多様の仕事にわたり、そしてこのように長時間働いています。あるアメリカ人は一人の主婦の働きは、料理人、保姆など四五人の人手を必要とするとして、それを給料に計算しましたが、その額はかなりの大きいものです。

しかし、経済的に主婦の働きは大きいというばかりでなく、このしごとを通して、主婦は家族の人たちの生命を再生産しているというところに大きい意味があります。

Ⅱ 主婦の生活をたかめる

(1) 家事労働の軽減

今まで主婦は毎日忙しく、忙らんでいるということを見てきましたが、しかし在りては、主婦の家事労働は、だらだらと、むだに長い時間がついやされていると批評する人もありますし、またこのまま認められたとしても、この様に家事労働に追われどおしては、本来の大切な主婦の役目を果たすことは出来ません、まずどうしたら家事労働の時間をきりつめることが出来るかが、つぎの課題となります。

1. 仕事と工夫

まず主婦自身が、自分の仕事をもっと工夫してむだをなくことです。現在の経済的状態は、どうにもならないと、すぐあきらめてしまうのは早計で、どこまで工夫が出来るか、そのぎりぎりのところまで試みることです。毎日の、一週間の、一ヶ月のそして一年間の計画をたてることです。

しごとに秩序をたて、区切りをつけてゆくと、意外余暇も生れてくるものです。またしなければならぬ家事しご

とがありさうだといふたえざる不安から解放されて、生み出した時間が有効に使えることになりましょう。また今まで、慣習的に行われていた日常生活の検討として、衣食住の簡素化をはかり、同時に能率を高めるために、器具についての研究や、手順の工夫をすることなどが必要でしょう。

④ 家族の手俵

主婦自身が出来るだけの工夫をして、そこには限界があります。家族の人たちみんなが仕事を分担して、主婦のしごとを軽くすることがのぞましいことです。この場合は女子ばかりでなく男子もふくめることです。男の子供たちも、小さい時から女のきょうだいとともに、自分のことは自分で処理して母親の手をわすらうせず、また気軽に母親の手俵をする習慣をすれば、結婚してからも、妻がどんなに忙しくても、懐手しているという夫にはなうでしょう。ほんの一寸した手俵でも、主婦の負擔をどんなにか軽くするかわかりません。それがわかれば家族の人たちもそれぞれで各自の負擔を受持つようになるでしょう。

⑤ 主婦の協力

しかし個々の家では解決できないことでもできます。隣近所または婦人団体やその他のグループの会員同士の協力として、時間を生みだすことが考えられます。子供を互にあずかりあったり、買物をまとめて一人が引受けたり、洗濯や炊事を共同でしたり、一軒の家では買えない器具を、みんなで買って一緒につかうことなどいろいろありましょう。之、生み出した時間を有効に

生活時間でみられるように現在、主婦は家事労働の負擔のため、自分自身を育ててゆくための時間を殆どもちません。時間が生みだされたなら、それを教養、娯楽、休養の時間にあてる、また社会のためにやく立つ仕事にふり向ける働きましょう。

⑥ 教養をたかめる

よい妻となるためにも、よい母親となるためにも、またまぎわよく家政を処理してゆく上にも、主婦の教養をたかめることは必要です。狭い家庭にとじこもり、家事だけが生活の全部であるといった日常をつづければ、どんな人

も生氣を失ってしまいます。夫の仕事や考えを理解し、成長してゆく子供達を見失わなければ、主婦もまたえず自分を高めていかねばなりません。夫や子供たちの精神のよきよみを知らねば主婦では、やがて愛情の上にも破たんがくるでしょう。

また教養を身につけることは家族のためばかりでなく、主婦自身が本当のたのしみを味わうことになりす。

（いざなり）
いままですぐを求めることは、何か気のひけることのおぼやかりました。殊に主婦は、家族の人たちの道に如りて、気晴らしをするということもよく、自然、陰気に思ふべきなりがちでした。しかし仕事の能率を上げる上にも、気持を明るくする上にもレクリエーションが必要なのは、異論がなるところです。家庭の中心となる主婦は、ばたばたと安否を尋ねてする暇もないうつて、はたして夫のあやがるときには一しよにめをぶよすに、いつも明るく元気でいたいものです。

ハ （社会にやくたつ人）

主婦も家庭の人であり、同時に社会の人です。時には命がなければ、すすんで婦人団体や、P.T.A、農村では農協組合、またはその他の文化団体の活動にも参加し、自分の村や町をすみよくするための仕事にもたずさわりたいものです。

自分の住む地域の政治がどうなっているか注意を拂うことは市民としての務めです。その第一歩である選挙権を適正に行うというのも、皆段から関心をよせていかなければならぬものです。子供たちの学校のこと、遊園地、公民館、図書館など公共の施設を整備する仕事も意義があります。

また主婦も争情が許せば職業につけてその才能を社会に役立たせたいものです。現在はまた種々の困難がともないますが、家庭生活が整理されてくれば、あながちでまほしきことでもありません。現にアメリカでは職業につけている婦人の半数は既婚者、三分の一が未婚者、六分の一が死離別者となっています。

主婦の生活がたかめられ、ひとりひとりが教養あり、社

会に役立つ人になれば、日本の半分が高められることにな
ります。